

三十六回蒼天句会 今月の一句

令和七年十月九日 兼題…新米、又は自由

八十年続きし平和今年米 公子

新米やもう一度みる水加減 婦紗子

かたむくる箱に小さき手赤い羽根 賢一

新米やどんと積まれし道の駅 繁一

干拓の歴史ひもとく稲の秋 孝志

新米や一升枰に坐りよき 洋一

蔦紅葉調子はずれのリコーダー 信江

水鏡静けさ映す良夜かな 静江

行年は年下ばかり墓洗う 鎮夫

早稲の飯少なめに盛る齢かな 国祥

暁光や川鶉の飛列絶え間なく 隆彦

踊りの輪月の城下を練りゆけり 重子

待つことを楽しむ齢竹の春 朱美

菊の香や古墳の脇の小さき墓地 紹子

新米の香りひとときは塩むすび 晴代

中庭のきゃしゃなる木々に秋の色 久恵